

令和2(2020)年産なし管理ポイント(第7報)

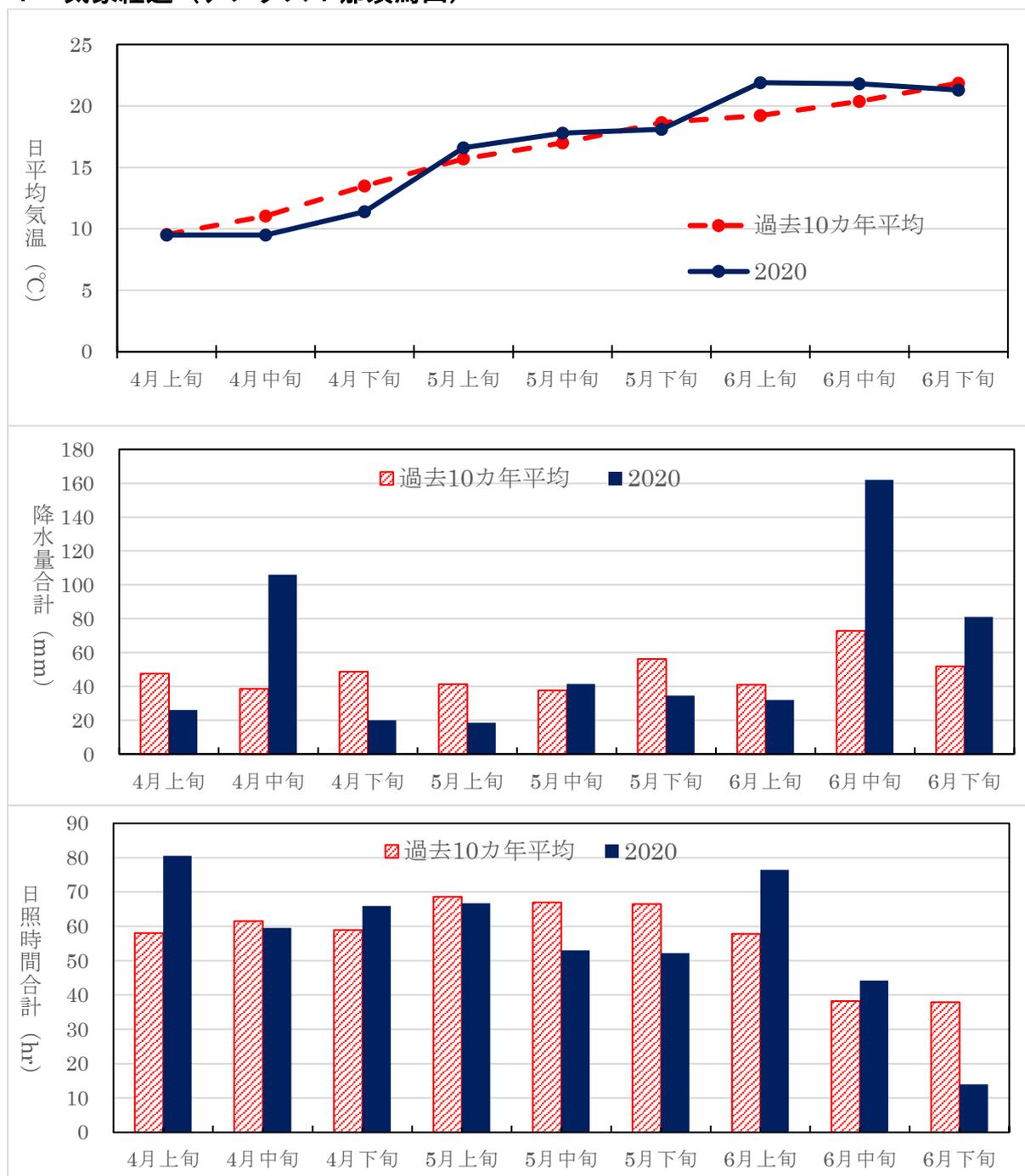
令和2(2020)年7月13日

栃木県塩谷南那須農業振興事務所経営普及部

☆今回の重点ポイント

- 補正摘果前に再度着果量を確認し、できるだけ目標収量の確保に努める。
- 新梢管理を徹底し、本年産果実の品質向上と次年産花芽の確保を図る。
- 黒星病、輪紋病の防除徹底
- カメムシ類、ハダニ類の防除徹底

1 気象経過(アメダス: 那須烏山)



2 生育状況と今後の生育予測

(1) 果実肥大状況

- ・直近の生育診断ほ等のデータでは、開花期の低温災害直後よりも果実肥大は回復傾向にあるが、平年比 80～90%の肥大状況である。
- ・被害の大きかった「豊水」、「にっこり」等の肥大状況が特に良くない。

表1 生育診断ほの果実肥大状況

品種名	地点	開花盛	果実径 mm					
			測定部	満開後 30日	満開後 40日	満開後 50日	満開後 60日	満開後 70日
幸水	那須烏山市	4/19 (-5日)	横径	17.4 (83)	22.5 (84)	28.6 (92)	33.3 (93)	
			縦径	15.0 (79)	19.3 (81)	24.3 (89)		
	農業試験場	4/18 (-5日)	横径	19.2 (85)	24.9 (86)	30.7 (90)	35.1 (89)	41.6 (91)
			縦径	16.5 (83)	20.9 (82)	25.8 (89)	29.1 (88)	34.2 (90)
豊水	那須烏山市	4/14 (-7日)	横径		20.8 (81)	25.3 (86)		
			縦径		18.7 (77)	22.8 (83)		
	農業試験場	4/15 (-5日)	横径	17.1 (71)	23.1 (80)	27.6 (82)	31.6 (83)	33.7 (79)
			縦径	15.7 (70)	20.7 (77)	25.0 (81)	28.6 (82)	30.5 (78)
にっこり	農業試験場	4/4 (-10日)	横径	16.6 (70)	25.7 (84)	30.7 (85)	35.8 (88)	39.5 (87)
			縦径	18.4 (69)	26.5 (81)	30.9 (82)	35.4 (84)	38.9 (85)

※ 括弧書きは平年比。「-」は早い、「+」は遅いの意。

(2) 収穫期及び果実肥大の予測

- ・農業試験場による予測では、「幸水」の収穫時果実は果実横径で平年比96%と平年よりやや小さい見込み。
- ・収穫期は、那須烏山市の生育診断ほで「幸水」が平年より4日早く連続収穫が始まり、同3日早く収穫盛（6割終了時）となる見込み。
- ・「豊水」は平年より2日早く始まり、同2日早く盛となる見込み。
- ・「にっこり」は農業試験場で平年より4日早く始まり、5日早く盛となる見込みで、管内でもほぼ同様の傾向と思われる。

表2 収穫期及び果実肥大の予測（農業試験場 6/1時点）

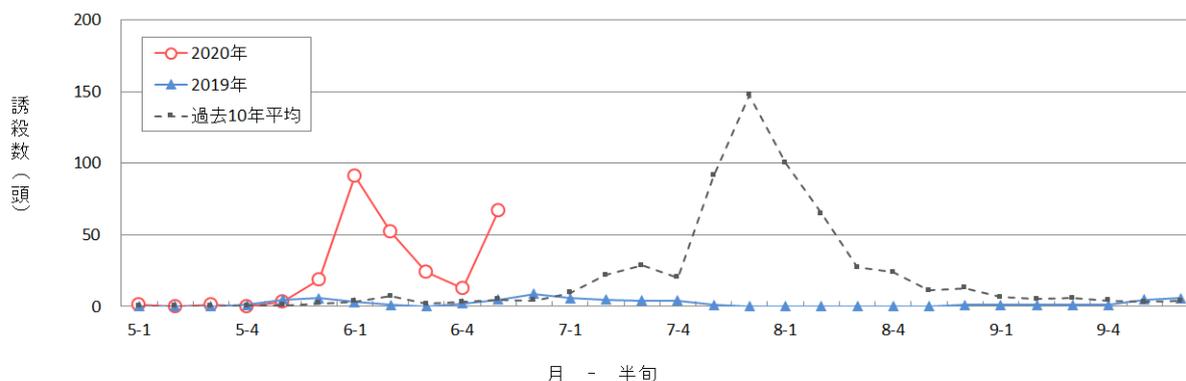
品種名	地点	果実横径	果重	収穫始	収穫盛
幸水	那須烏山市	84.3 (96)	310 (93)	8/16 (-4日)	8/23 (-3日)
	農業試験場	92.6 (94)	388 (84)	8/17 (-4日)	8/28 (-4日)
豊水	那須烏山市	/	/	9/7 (-2日)	9/17 (-2日)
	農業試験場	95.5 (93)	442 (82)	9/6 (-3日)	9/17 (-4日)
にっこり	農業試験場	/	/	10/10 (-4日)	10/23 (-5日)

※ 括弧書きは平年比。「-」は早い、「+」は遅いの意。

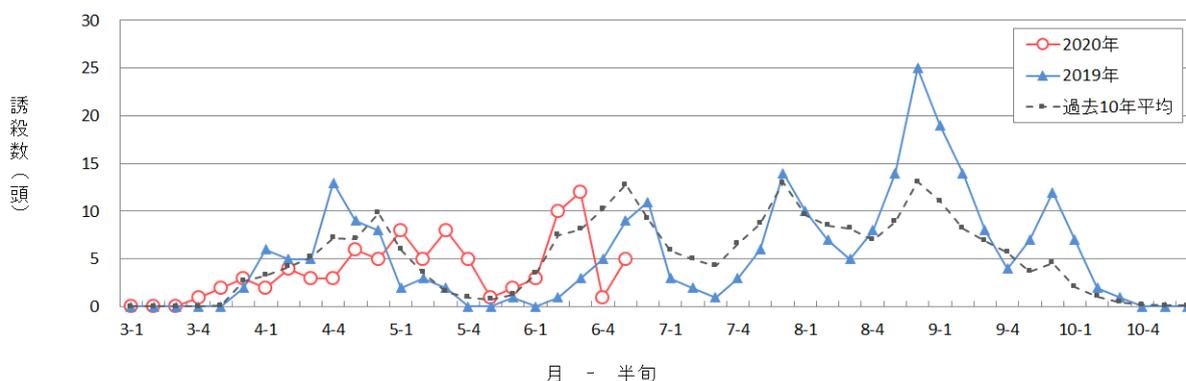
(3) 病害虫発生状況

- ・ 6月下旬頃から管内の梨を含む果樹園でカメムシ類の飛来が増加している（下図参照）。
- ・ 管内の多くのほ場で、芽基部、葉、幼果等に黒星病が発生している。
- ・ 県農業環境指導センターの定点調査によると、那須烏山市でナシヒメシンクイが6月第5半旬から第二世代成虫の発生が増加し始めており、7月22日頃に発生ピークになると予測されている（下図参照）。

チャバネアオカメムシのフェロモントラップによる誘殺数（那須烏山市）



ナシヒメシンクイのフェロモントラップによる誘殺数（那須烏山市）



3 今後の栽培管理ポイント

(1) 補正摘果

- ・ 裂果の発生が収まってから実施する（裂果は「幸水」及び「豊水」は満開後90日頃、「にっこり」は同130日頃発生する）。
- ・ 事前には場ごとに着果量を確認し、できるだけ目標収量の確保に努める。

表3 目標収量と着果数の目安（通常の結実状況の場合）

品種名	収量 (kg/10a)	平均果重 (g)	着果数	
			果/樹冠1㎡	果/10a
幸水	3,000	400	10	8,500
豊水	3,700	430	11	10,000
あきづき	4,000	500	10	9,000
新高	4,000	500	10	9,000
にっこり	6,000	750	10	9,000

注) 10aあたり着果数は樹冠面積占有率を90%、収量は商品化率90%としてそれぞれ算出した。

(2) 新梢管理

① 結実が少ない園や新梢が平年より多く発生している園の処置

- ・ 定芽から発生した新梢は必要数を残し、不必要な新梢は発生基部から2～3葉程度残し剪除する。
- ・ 潜芽から発生した新梢は、発生条件の良いものを2～3本程度残し剪除する。
- ・ 長果枝からの飛び出しが多い場合は、6月下旬～7月上旬に摘心を行い、次年産の短果枝を養成する。

【摘心する際の留意事項】

- ・ 先端の新梢が順調に伸長していることを確認のうえ処理する。
- ・ 先端3本程度はそのまま伸ばし、それより基部の新梢を摘心する。
- ・ 先端の新梢が伸長していない場合はできるだけ先端に近いところから飛び出している新梢を先端に切り替える。
- ・ 次年産のえき花芽着生と今年の果実肥大を促進するため、6月下旬～7月上旬に新梢が棚面に対して45度になるように予備枝や新梢を誘引する。

② 結実が平年並の園の処置

- ・ 次年産のえき花芽着生と今年の果実肥大を促進するため、6月下旬～7月上旬に新梢が棚面に対して45度になるように予備枝や新梢を誘引する。
- ・ 夏季剪定は、農薬散布に支障をきたすような極端に混んでいる部分の新梢を剪除する程度にとどめる。

(3) 「にっこり」の品質向上対策（輸出対応）

- ・ 果実は棚線に触れないように配置し、傷果の発生を抑える。
- ・ 果肉障害の発生が懸念される園は、カルシウム剤（カルタス、カルプラス等）を満開後10日から2週間間隔で5回程度葉面散布する（「豊水」、「あきづき」）。

」にも有効)。

(4) 病虫害防除

① 病害 (黒星病、輪紋病等)

- ・梅雨時期は黒星病や輪紋病の感染が盛んになるので、部会防除指針を参考に散布間隔が空きすぎないように農薬防除を行う (12 日以上空けないように)。
- ・葉の黒星病斑の摘み取りを徹底する。摘み取った病斑は園外に持ち出して土中埋却処分する。
- ・スピードスプレーヤーは防除効果を高めるため、1.5Mpa 程度の低圧で全樹列間を低速走行するよう努める。

② カメムシ類

- ・ほ場内で飛来が確認されたら防除する。
- ・夜行性のため、蒸し暑い日の日没時に発生状況を確認する。
- ・夕方や早朝の防除が有効。

③ ナシヒメシンクイ

- ・前述の県農業環境指導センターの発生予測から、那須烏山市における第3世代幼虫に対する防除適期は、7月23～24日と予測される。

④ ハダニ類

- ・梅雨明け後、高温乾燥が続くと多発が懸念される。
- ・多発すると防除が困難になるため、発生初期防除に努める。
- ・防除が遅れないようにするため、「例年発生し始める場所」や「園外周部の主幹に近い枝」等を重点的に観察し、果そう葉や徒長枝基部葉の裏を確認する (できればルーペで)。
- ・薬剤散布の目安：雌成虫 1～2頭/葉、寄生葉率 20～40%
(葉を 50 枚見て 10～20 枚に寄生している状態)
- ・薬剤抵抗性が発達しやすいので、系統が異なる薬剤をローテーションで散布する。同一系統の薬剤は年 1 回のみを使用とする。
- ・主に葉裏に寄生するので、薬液が葉裏までよく付着するよう十分な量を散布する。
- ・散布 7～10 日後に、再度発生密度が増加する場合は追加散布する。

4 季節予報

(1) 関東甲信地方 1 か月予報 (7/4～8/3) 7/2 気象庁発表

○特に注意を要する事項

- ・期間の前半はかなり気温が高くなる。

○予想される向こう 1 か月の天候

- ・期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。
- ・期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い。

○気温、降水量、日照時間の確率

- ・気 温 低い 10% 平年並 20% 高い 70%
- ・降 水 量 少ない 30% 平年並 40% 多い 30%
- ・日照時間 少ない 30% 平年並 30% 多い 40%

(2) 関東甲信地方 3 か月予報 (7～9月) 6/24 気象庁発表

○予想される向こう 3 か月の天候

- ・7月 期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多い。

- ・ 8月 平年に比べ晴れの日が多い。
- ・ 9月 天気は数日の周期で変わる。平年と同様に曇りや雨の日が多い。

○気温、降水量の確率

・ 気温	3か月	低い 10%	平年並 30%	高い 60%
	7月	低い 20%	平年並 30%	高い 50%
	8月	低い 20%	平年並 30%	高い 50%
	9月	低い 20%	平年並 30%	高い 50%
・ 降水量	3か月	少ない 40%	平年並 30%	多い 30%
	7月	少ない 30%	平年並 40%	多い 30%
	8月	少ない 40%	平年並 40%	多い 20%
	9月	少ない 30%	平年並 40%	多い 30%

農作物には登録農薬を使用し、使用基準を遵守しましょう！



身支度も
万全に！

- ① 農薬容器のラベルをよく読み正しく使う
- ② 農薬の飛散防止を徹底する
- ③ 農薬の使用状況を正確に記帳する